

北大マルシェアワード 環境部門 募集要項

思い

温室効果ガスの排出や化学肥料の使い過ぎによる土壌汚染、水質悪化など、農業が環境に及ぼす影響は決して小さくありません。一方で、それらの課題に向き合い、日々の営みの中で地道に取り組みを続けている農業者がいます。

本賞では、そうした現場の声と工夫に耳を傾け、行動する農業者の姿を伝えていきたいと考えています。環境を守りながら農業を続けていくことは決して簡単なことではありませんが、だからこそ、一歩を踏み出した方々に敬意を表し、広く紹介することで社会全体でその価値を共有し、そうした取り組みを広げたいと考えています。

評価項目

本賞では、以下の3つの視点を重視して総合的に評価を行います。

1. 問題意識(見つける)
農業による環境負荷について、どのような点に問題意識や改善の必要性を感じているのか

また、そのような問題意識を持つに至ったきっかけや背景など
 2. 計画性と持続可能性(考える)
持続可能な農業の実現に向けた取り組みの計画性・持続可能性、取り組みを実行するために工夫している点
 3. 主体的な行動(実行する)
主体的に実践している環境に配慮した取り組みの内容(どれだけ主体的に取り組んでいるか、取り組みの内容が他者にとって参考になるものであるか、など)
-

募集対象

以下に該当する方を広く募集します(農業の形態・職種は問いません)。

- 農業における環境問題への意識を持ち、自らの営みに反映させている人
- 現在進行中の実践的な取り組みを有している人

※計画のみでまだ実行に移していない場合は対象外

具体的な取り組み例(参考)

- 地元の河川でもう一度蛍が見たい。
→コーティング肥料を活用してリン・窒素の流出防止を図り、河川の汚染を防止する。
- このままの農業を未来の子どもたちに引き継いでいいのか。
→除草剤に頼らない草管理と自然に近い栽培を通じて、次の世代が安心して選べる農業を残す。
- 耕すことで土が疲弊していないか。
→不耕起栽培と緑肥を導入して土を育てる方向へと転換し、土壌の生命力を守る農業のあり方を模索する。
- 牛の餌や堆肥を地元で循環できないか。
→草地を活かした放牧と堆肥還元の仕組みを通じて、地域内で持続可能な酪農を目指したい。
- 国立公園の周囲で農地由来の影響が懸念されている。
→景観に配慮した農地管理や有機転換を進め、環境保全と農業共存のモデルを地域に根付かせたい。